

次引出物○中 尊者若好鷹者被奉之、尊者前駟相跪受之、受時間犬名云々、

〔西遊記〕獵犬

薩摩は武國にて、若き人々山野に出て鳥獸を獵る事、他國よりも多し、すべて山野に獵するには、よき犬を得ざれば不叶事なり、彼邊の犬常の人家に養ひ飼ものは、長々低く上方の犬よりも少し小なり、常に座敷の上に養ふて、上方の猫を飼ふがごとし、至極行儀よく、上方の犬よりは柔和なり、異品といふべし、又獵に用る犬は、格別に長々高く猛勢にて、座敷に養ふことなく、上方の犬を飼ふ通りなり、其猛勢なる事は、上方の犬に十倍せり、先年虎の餌の爲に、彼國の犬を入れしに、其犬虎の嗔に咬み付て虎を殺せし事、世間の人の物語にあるごとくなり、かゝる猛勢なる犬ゆへに、常々は二三疋寄り集れば、早必咬合て喧しきに、大勢獵に出る時などは、諸方の犬を皆々各繋ぎて牽行事なるに、町を出るまでは、側近く寄れば必咬合て騒けれども、既に山に入ると、其犬ども常々はいかやうに中惡敷よく咬合ふ犬にても、甚中よく成りて、綱を解き離して、犬の心任せに馳廻らすれども、犬同士咬合ふ事無く、互に助合て山を働くなり、是向ふに猪鹿といふ敵あるゆへに、犬ども皆一致の味方に成りて中よき事とぞ、是に依ていふに、むかし朝鮮御陣の時、彼地にては、日本人いかなる者も皆一致に成りて、相互に助け合ひ、至極親しかりしとぞ、向ふに異國人の敵あるゆへに、日本人同士は格別に親しみ厚く成りける事尤の事なり、一家の中にてても、親子兄弟夫婦等の中あしく争ひ怒る事は、内證ごとにて、畢竟は榮耀我儘などともいふべきにや、もし盜賊にても入らば、いかなる中惡敷家内にてても一致に成りて防ぐべし、此故に詩經にも、兄弟かきにせめげども、外には其あなどりをふせぐとも見へて、他人の親しきよりは、中惡敷骨肉の方厚かるべし、此所を心をひぞめて考へ辨へば、自ら友愛弟順の道にも叶ひて、親しきより以て疎に及ぶの教をも知るべし、人畜の別なく、同種の親しみ同根の愛は、天地自然の道なり、